

# 高向小学校(5年1組)間伐体験 (日野・K様有林にて)

2018年10月30日

## 森林の働き

最近日本各地で多発する自然災害について、よく「想定外のことが起こった」という言葉を耳にします。でも「想定外」で済ませてしまって本当にいいのでしょうか。

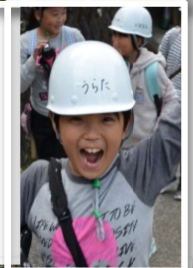
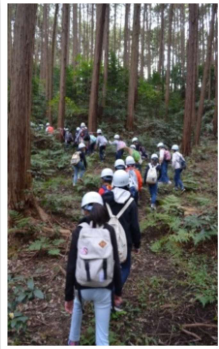
森林には、大雨による土砂の流出を緩和し、土石流などの災害を防ぐ働きがあるとされています。但しそれは、林床に陽の光が届き、下草が生い茂る健全な状態の森林の場合です。間伐などの森林の手入れを怠ると、枝葉に上部を遮断された暗い森林となり、下草が枯れて土がむき出しの状態になります。そこに大雨が降り土壌の流出が起こると、林床の劣化を招き、樹木が倒れやすい状態になるのです。

手入れの行き届いた健全な森林では、樹木が根をしっかりと張り、植物が雨水を含み、土壌にもたっぷり浸透して川下への流出を遅らせます。その結果、水量を一定に保つことで、洪水や水不足を緩和します。このような働きを「水源涵養(かんよう)」と呼んでいます。

理想的な森林では、背の高い木々の下に低木類が生育し、さらにその下にシダ類などの下草が表面を覆う美しい光景が見られます。

またその森林には、土中微生物、キノコ、昆虫、鳥類など多様な生物が生育し、豊かな自然環境(生態系)へと発展します。

さらに、スギ・ヒノキなどの人工林で生産される木材は、建築材や家具に利用されるほか、最近ではバイオマス発電の燃料としても注目されています。



ロープ上げに挑戦



# 初めての間伐体験



## 年輪の話

木の断面に見える同心円の模様を「年輪（ねんりん）」と言います。木の皮をはいだ時に現れる白い部分が「年輪のもと」になります。この部分は「形成層」と呼ばれ、外側に樹皮をつくり、内側には木となる部分をつくります。春から初夏にかけての気温の暖かい時期には成長が旺盛となり色の白く柔らかい部分となり、夏以降は成長が遅くなって硬くて色の濃い部分になります。この部分が「年輪」になります。「年輪」は木の中心が古く、外側ほど新しくなります。針葉樹では、写真のようにはっきり分かりやすい年輪ですが、広葉樹では、幹の構造の違いからぼやけた年輪になります。